

消化管神経内分泌腫瘍に対する内視鏡的切除術の成績に関する多施設共同研究

・はじめに

消化管神経内分泌腫瘍(neuroendocrine tumor: NET)は、従来、カルチノイドと呼ばれ、初期には良性腫瘍と考えられてきましたが、現在ではリンパ節、肝臓等に転移をする可能性のある悪性腫瘍と考えられています。転移の確率が低いと考えられる消化管NETに対しては内視鏡的切除術で治療される事が多いのですが、発生頻度の低い腫瘍ですので、内視鏡治療の適応に関してはエビデンス(この治療でよいとする根拠)があまり多くない状況です、

消化管NETの分類がWHO(世界保健機関)により2010年に改訂されました。これまでの分類と異なり、腫瘍細胞の増殖の程度を指標に分類されている事が特徴です。しかし、この新しい分類法が、治療方針を決めたり、予後を予測するのにどの程度有用かは、今後の検討課題です。

そこで私達は、これまで当科および関連の病院で内視鏡的切除術で治療された消化管NETの患者さんの治療成績を調べ、また、切除された腫瘍の病理学的な診断を新WHO分類に沿って再検討する事で、消化管NET治療における内視鏡的切除術の有効性、安全性や、どのような腫瘍が内視鏡的切除術で治療するのに適しているかなどを検討し、今後の消化管NET治療の改善につなげていきたいと考えています。

・対象

国立病院機構福岡東医療センターにおいて、消化管NET、または消化管カルチノイドの診断で平成13年4月1日から平成24年3月31日までに内視鏡的切除術を受けられた約8名の方を対象に致します。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

・研究内容

当科および関連施設で消化管NET(またはカルチノイド)を内視鏡的切除術により治療された方の臨床情報(年齢、性別など)、治療に関わる情報(治療手技、合併症の有無など)、切除標本の病理組織情報(組織型、深達度、脈管侵襲の有無など)を過去にさかのぼって調査します。また、内視鏡的切除術施行後患者さんの経過を通して、消化管NET(またはカルチノイド)の再発の有無や生存率などの調査を行います。過去に内視鏡的に切除された組織、またはプレパラートを用いて、新WHO分類に基づき、腫瘍を分類します。

この研究は過去の情報を使用しますので、患者さんに新たな負担や不利益が生じることはありません。

・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、当施設において個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・研究期間

研究を行う期間は承認日より平成29年3月31日までです。

・医学上の貢献

本研究により対象となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、研究成果は消化管NETの内視鏡的治療および治療後の経過をより良いものにして、今後多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

国立病院機構福岡東医療センター・消化器肝臓内科。

部長・田中宗浩

連絡先: 〒811-3195 福岡県古賀市千鳥1-1-1

独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 消化器・肝臓内科

tel : 092-642-5286

担当 : 田中 宗浩